

第6回琵琶湖部会(2001.11.1)資料3-3

琵琶湖部会における今後の検討課題に関するまとめ (案)

<議論の枠組みイメージ>

1. まず、理念・哲学・理想像・スタンスといった「基本的な考え方」を”従来”のものから、どう転換していくべきか
2. 上記の「基本的な考え方」のもとで、治水・利水・環境などの面で「具体的な方向」として、どんなことが考えられるか
3. さらに、”[琵琶湖および]各河川でのあり方”や、”堤防整備の方法”[・”沿岸環境の保全方法”]など、個別・具体の対応策として何が考えられるか

(以上は[一]以外、淀川部会から完全転用)

	従来	転換後
基本的な考え方	「人間の利害の視点」からの河川整備	「河川の視点」および「人間の利害の視点を同等に位置づけた河川整備 河川の視点：水・土・生物（人間を含む）等によって構成される複合体としての河川系（生態系）という視点
	河川を拘束・制御する 硬直的目標設定型計画	河川に生かされる 順応的フィードバック式計画
	(以上は近畿地方整備局の文書による)	
	経済的人間が中心 洪水期・濁水期を中心対象とした計画 「寄らしむべし、知らしむべからず」とでもいうべき行政中心の整備設定 短期的・「刹那的」な目標設定	総合的人間の視点を含めた河川そのものが中心 平常時を含めた計画 住民が知恵を出し、それを行政が推し進めるかたちの整備設定 自然の歴史を考えた真に長期的な目標設定 現状から考えるだけではなく、理想的にはどのようなべきかを考えたうえで、その方向に向かって進める
	(以上は淀川部会のものを基盤に新たに作成)	
具体的な方向		○「治水」「利水」「環境」の分類・順序の見直し 縦断的（山～川～海）不連続の修復 横断的（河川区域外～河川敷～水域）不連続の修復 河川水質の修復 排水路・用水路・人工的利用空間土木構造的整備の是正 ○繰り返す破堤の輪廻からの脱却

流量・水位変動管理の弾力化

水利用の見直し

○基本的な考えのもとで優先順位の明確化

フォローアップシステムの確立

(以上は近畿地方整備局の文書による)

水はとにかく早く海に流し、一方で
ダムで水を貯める計画

洪水は河川の中だけで防ぎ、それを超
えたときは「天災」とあきらめる計
画

使いたいだけ使えるような利水計画

<治水><利水>に影響の無い限り
において、環境を考えてみてもよい

水量の変化する自然な流れを治水の基本とする
計画

洪水時には、水が河川外にあふれる状況をもあ
る程度考慮しながら、流域の土地利用全体で
対応する計画

「もったいない」との考え方のもとで、「ライ
フスタイル」を変えたうえでの利水計画

環境保全を中心に「生態系的アプローチ」
(いくつかの国連会議における用法による)
を中心とする

(以上は淀川部会のもを基盤に新たに作成)

個別項目、 省略
対応策

省略

<検討項目(総論)>

1. 琵琶湖淀川水系の目標・理念

1-1. 長期的な展望

地球の長い歴史の中における琵琶湖淀川水系の特異性・重要性の位置づけ (淀川部会を参考に川那部)

例えば100年といった長期的な展望の必要性 (『河川法』の定義による「河川管理者」。以下「河川管理者」とのみ書く)

今後の人口減少を踏まえ、あるいはそれをむしろ促進する状態でのあり方 (淀川部会を参考に川那部)

1-2. 川と人との関係

河川とは何で、どう考え、いかなる望みを組み上げ、それを作り上げるのか。さらには「川は本来どうあるべきなのか (三田村)

「治水」「利水」「環境」のくくり、さらに河川系(生態系)の位置づけ (「河川管理者」)

「遊び」「育ち」「文化」の場としての琵琶湖と河川 (村上・「河川管理者」)

2. 社会・流域全体の視点

2-1. 地球環境

「温暖化」など地球環境変化の影響 (淀川部会を参考に川那部)

2-2. 社会環境

法体系の整備等の問題 (淀川部会を参考に川那部)

2-3. ライフスタイル

21世紀のライフスタイルとはいかなるものか (淀川部会を参考に川那部)

2-4. 河川に対する意識

河川に関する一般的認識・関心とその教育 (村上・「河川管理者」)

2-5. 流域管理

山から海までのみならず、太平洋への「垂れ流し」を含めた全域問題（淀川部会を参考に川那部）
流域の土地利用問題（淀川部会を参考に川那部）
上流・下流の連携（「河川管理者」）

2-6. 水環境・物質循環

正常な水循環のありかた（淀川部会を参考に川那部）

3. 整備・計画の視点

3-1. 整備・計画のあり方

琵琶湖と下流との関係（環境経済学的観点を含めて）（三田村・村上）
過去の計画の反省の明示の必要性和、これからの対策（ハード・ソフト）の明示の程度、さらには計画改定や「順応的計画・管理方法」の問題（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
直轄河川外との関係、他省庁・地方自治体との関係（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）

3-2. 事業のあり方

コストと効果の考え方（淀川部会を参考に川那部）

3-3. 管理のあり方

「順応的管理方法」の問題（前出）
住民参加などによる管理（「河川管理者」）
琵琶湖の水位操作（西野・「河川管理者」）

3-4. 連携・パートナーシップ

他省庁・地方自治体との関係（前出）
住民参画の基本的なあり方（淀川部会を参考に川那部）

3-5. 情報共有・発信

情報公開・情報提供のあり方（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）

4. 治水・利水・環境（境界・融合領域）

生態系の維持を前提とした河川開発の適正規模（三田村）
ダムとの必要性和と琵琶湖への影響（川端・寺川・西野・村上）
河川・湖岸改修の琵琶湖への影響（西野、淀川部会を参考に川那部）
落差工・洗堰等による魚類等の移動障害（「河川管理者」）
総合的に考えた適切な湖面利用のあり方（「河川管理者」）
今後の琵琶湖と河川における漁業等のあり方（淀川部会を参考に川那部）
「多自然型川作り」を「近自然的」なものに（淀川部会を参考に川那部）

<検討項目（各論）>

5. 治水

5-1. 方向性・考え方

水害とは何か、その許容範囲、さらには洪水の役割の評価（淀川部会を参考に川那部）
「洪水のある程度の溢流」を認めた今後の方向のもとにおける、一般住民の「危機意識」の低下を含めた防災問題（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
気候変動などとの関係（「河川管理者」）

5-2. 洪水

破堤・溢水・氾濫・ダム下流域の冠水、などの問題（「河川管理者」）
土砂減少・瀬切れ・湖岸侵食、などの問題（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
森林・農地などの保水機能と、土地利用方法の変革（「河川管理者」）

5-3. 高潮

- なし
- 5-4. 地震・津波
 - 洗堰の地震対策（「河川管理者」）
- 5-5. ソフト面での防災
 - 水防方法伝承・災害減少対策策定・緊急対応、などの問題（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
- 6. 利用
 - 6-1. 方向性・考え方
 - 水域・高水敷の利用のあり方（「河川管理者」）
 - 水需要あるいは「安定的供給」とは何か（村上・「河川管理者」）
 - 水質を向上させるための琵琶湖・河川の生態系のあり方（川端、淀川部会を参考に川那部）
 - 6-2. 湖面・河川空間利用（水域・高水敷）
 - 漁業の「振興」について（倉田・「河川管理者」）
 - 舟運問題（「河川管理者」）
 - 不法行為・不法占拠、などの問題（「河川管理者」）
 - 総合的に考えた適切な湖面利用のあり方（前出）
 - 6-3. 水利用
 - 農業形態の変化と水質の関係（「河川管理者」）
 - 味覚や景観をも含めた水質のあり方（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
- 7. 環境
 - 7-1. 方向性・考え方
 - 環境目標度設定への試み（淀川部会を参考に川那部）
 - 水質を向上させるための琵琶湖・河川の生態系のあり方（前出）
 - 縦断・横断方向の連続性、開放系性、自由な流れ、などの回復（「河川管理者」）
 - 生態系（既成の科学的概念に近い意味での）と景観の変化の問題（「河川管理者」）
 - 水質向上のための住民のマナーの問題（「河川管理者」）
 - 琵琶湖や河川を一般市民が近いものとして理解するための方策（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
 - 7-2. 生物・生態系
 - 固有種・外来魚・病気などの問題（寺川）
 - 7-3. 水量・水質
 - 生態学的水需要の決め方の問題（村上）
 - 微量有害物質をも視野に入れた水質基準と管理（淀川部会を参考に川那部）
 - ダム等を含む上流部水質悪化問題（「河川管理者」）
 - 水質を向上させるための琵琶湖・河川の生態系のあり方（前出）
 - 水質汚濁や水位変動が水質や生態系・景観、さらには文化に与える影響（「河川管理者」、淀川部会を参考に川那部）
 - 7-4. 河川形状
 - 土砂減少・瀬切れ・湖岸侵食、などの問題（前出）
- 8. 住民の意見聴取・反映方法
 - 住民のとらえ方（村上・「河川管理者」）
 - 住民の意見聴取・参画・反映などの具体的方法の問題（寺川・村上、淀川部会を参考に川那部）
- 9. その他
 - 丹生川ダムの問題（村上）